



## 地域資源の適切な保全管理の推進

かんきょうほぜんこういききょうてい

しみずちよう

### しみず環境保全広域協定

(北海道清水町)

### 平地農業地域



### キーワード

#### 【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 6,013ha (畑 4,090ha、草地 1,923ha)
- ・資源量 水路 106km、農道 102km
- ・主な構成員 農業者、自治会、女性会、子供会
- ・交付金 約 60百万円 (R4)

地域資源の保全管理

農地維持  
支払

資源向上  
支払  
(共同)

資源向上  
支払  
(長寿命化)

- 清水町では、12の活動組織による保全管理活動が行われてきたが、高齢化や後継者不足により活動終了となる組織も出るなど、適切な地域資源の保全管理が困難となっていた。
- このため、各々の活動組織で行っていた事務作業の負担軽減を目的に、事務を委託するとともに、広域化による組織体制の強化を図った。
- これにより、農業者は事務処理の負担が軽減されるとともに、計画的な維持補修体制が構築されるなど、施設の適切な保全管理が図られた。

### 活動開始前の状況や課題

- 本地域は、高齢化や後継者不足により、事務処理を担う人材確保に苦労しており、活動終了となる組織も出るなど、適切な地域資源の保全管理が困難になっていた。
- 保全管理する水路や農道は大規模なものもあり法面の斜面が長いことなどから作業が負担となり、安全性の確保も課題となっていた。



農道側溝の雑木伐採

### 取組内容

- 事務作業の委託により、負担軽減を図るとともに、町内の9組織が広域化することにより組織体制の強化を図った。
- 保全活動（土砂上げ、法面補修、敷砂利等）の外注等による大規模組織ならではの維持補修体制を構築。



農道の敷砂利

### 取組の効果

- 事務作業の委託により農業者の事務負担の軽減が図られ、保全活動や営農に専念することが可能。

＜日報等の整理に要する事務作業時間＞

広域化前 月40時間

広域化後 作業なし

大幅に削減

- 広域化後は各組織の代表者による点検で補修箇所を決定して、適期の対応が可能となった。



施設の点検



外注による水路の泥上げ



## 農業用施設の機能増進

### 中間農業地域

くりやまちょうためんてききょうすいしんきょうぎかいこういききょうてい

くりやまちょう  
(北海道栗山町)

- 中山間地域で傾斜地が多い本地域では、雪解けや大雨時に土砂が流出し、年間を通して土砂上げに多くの労力を費やしていた。
- このため、資源向上支払（長寿命化）の取組により、土水路をコンクリートトラフに更新し、施設の機能増進を図った。
- これにより、土砂上げ作業の労力が削減され、維持管理の労力が大幅に軽減された。

- 【地区概要】※R4年度時点
- ・認定農用地面積 5,190ha  
(田 3,672ha、畑 1,518ha)
  - ・資源量 水路 336km、農道 215km  
ため池 23箇所
  - ・主な構成員 農業者、土地改良区  
農業振興公社
  - ・交付金 約 165百万円(R4)

農地維持  
支払

資源向上  
支払  
(共同)

資源向上  
支払  
(長寿命化)

### 活動開始前の状況や課題

- 本地域は、傾斜地であり、雪解けや大雨時に土砂が流出し、年間を通して堆積した土砂上げに多くの労力を費やしていた。
- 土砂が流出する水路は未整備の土水路であり、早急にコンクリートトラフに更新し施設の機能増進を図る必要があった。

### 取組内容

- 資源向上支払（長寿命化）の取組により、土水路をコンクリートトラフに順次、更新。



施行前



施行中

### 取組の効果

- 土砂上げに要する時間(春)  
R2 4時間 × 2回/年 × 4人 = 32時間  
R3 土砂の堆積がなく、作業時間なし  
R4 土砂の堆積がなく、作業時間なし  
(※ R2施工 L=600mの排水路の場合)
- 土砂の堆積がなくなったことにより、維持管理の労力が大幅に軽減。



施行後

キーワード

農業用施設の機能増進

9





# 農村環境の保全・向上の推進

## 中間農業地域

ちゅうおう・かみなよろちくしげんほごたい

しもかわちよう

### 中央・上名寄地区資源保護隊 (北海道下川町)

- 本地域は、過疎化・高齢化などの進行に伴う集落機能の低下により、地域資源の適切な安全管理が困難となりつつあった。
- このため、農業者だけでなく地域住民や関係団体等が幅広く参加する活動組織を設立し、施設の簡易補修のほか農村の自然環境や景観を守る共同活動を地域に根付かせている。
- これにより、近年、頻出している有害鳥獣アライグマの農作物被害の対策を講じる際には、多くの農業者や関係者の協力を得ながら、定点暗視カメラや箱わなの設置を進めている。

#### 活動開始前の状況や課題

- 本地域は、過疎化・高齢化などの進行に伴う集落機能の低下により、地域資源の適切な安全管理が困難となりつつあった。
- 近年は、有害鳥獣アライグマの頻出により、農作物被害が増加している。



景観美化の花壇植栽



農道の草刈り  
共同作業

しもかわちよう

### 中央・上名寄地区資源保護隊 (北海道下川町)

- 本地域は、過疎化・高齢化などの進行に伴う集落機能の低下により、地域資源の適切な安全管理が困難となりつつあった。
- このため、農業者だけでなく地域住民や関係団体等が幅広く参加する活動組織を設立し、施設の簡易補修のほか農村の自然環境や景観を守る共同活動を地域に根付かせている。
- これにより、近年、頻出している有害鳥獣アライグマの農作物被害の対策を講じる際には、多くの農業者や関係者の協力を得ながら、定点暗視カメラや箱わなの設置を進めている。

#### 取組内容

- 共同作業に地域住民や関係団体等が幅広く参加し、農道では砂利補充、水路では泥上げ作業及び老朽化した水路の補修工事を実施している。
- 定点暗視カメラでアライグマの生態を監視し出没箇所には箱わなを設置し、農作物被害の軽減を図っている。



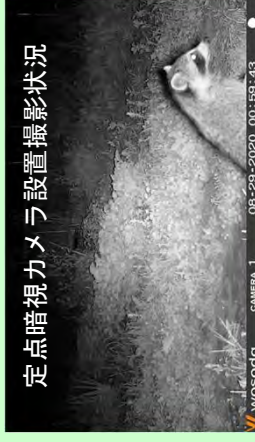
水路目地詰め  
共同作業 (635m)



箱わなとアライグマの爪跡

#### 取組の効果

- 維持管理の不十分な施設は減少し、水路の漏水等は解消されつつあり、減災体制も強化された。
- カメラ40台と箱わな3個を設置した対策により、令和2年度：4匹、令和3年度：21匹、令和4年度：13匹捕獲。
- 農業被害の軽減のほか、安定した農業生産環境の維持、地域の有害鳥獣対策への意識向上が図られている。



定点暗視カメラ設置撮影状況



#### 【地区概要】※R4年度時点

- ・ 認定農用地面積 293ha (田 293ha)
- ・ 資源量 水路 71km、農道 35km
- ・ 主な構成員 農業者、公区、土地改良区等
- ・ 交付金 約 14百万円 (R4)

農地維持  
支払

資源向上  
支払  
(共同)

資源向上  
支払  
(長寿命化)

#### キーワード

農村環境の  
保全・向上



# 自然災害の防災・減災・復旧の推進

## 都市的地域

いわみざわしこういききょうてい いわみざわし  
岩見沢市広域協定 (北海道岩見沢市)

- 本地区では、大雨時に農業用排水路や小河川の溢水のおそれがあるなど、洪水対策が地域の大きな課題となっていた。
- このため、『災害に備えて活力のある農業・農村』を目指して、田んぼダム用堰板を設置するなど平成30年度から本格的に田んぼダムの取組を開始。
- これにより、大雨時に排水路への流出が抑制されるなど、地域の防災・減災に寄与している。

### 活動開始前の状況や課題

- 本地区は、石狩川の中下流域で河川の合流も多く、大雨時に農業用排水路や小河川の溢水のおそれがあるなど洪水対策が地域の大きな課題となっていた。
- 市内に15箇所ある農業用排水機場は、近年の気候変動の影響から稼働回数が多くなり、機場への負荷も懸念されていた。



取組区域図

### 取組内容

- 水田の落ち口にV字型の田んぼダム用堰板を設置し、水田の雨水貯留機能を活用した田んぼダムの取組を開始。
- ※ 取組面積770ha (R4時点)

田んぼダム用堰板



降雨時は、V字部分の断面に応じて排水されるため、堰板操作が不要。(最大で10cmの雨水の貯留が可能)



通常時



降雨後



## キーワード

- ・自然災害の防災
- ・減災
- ・復旧

【地区概要】※R4年度時点  
 ・認定農用地面積 17,257ha (田 15,368ha、畑 1,873ha、草地 16ha)  
 ・資源量 水路 2,980km、農道1,185km ため池 9ヶ所  
 ・主な構成員 農業者、自治会、JA 女性会、農事組合法人 など  
 ・交付金 約 638百万円(R4)

農地維持支払  
 資源向上支払(共同)

農地維持  
 支払

資源向上  
 支払  
 (共同)

資源向上  
 支払  
 (長寿命化)

### 取組の効果

- 試験等により降雨時のピーク排水量が50%減、降雨終了時点の総排水量は40%減の効果が得られ、以下のような効果が認められた。
- 田んぼダム用堰板の活用により、大雨時の堰板操作や田んぼの見回りが不要となるなど農業者の負担軽減が図られた。
- 大雨時に排水路への流出が抑制されることにより、排水機場の負荷軽減が図られるなど、地域の防災・減災に寄与している。



排水機場の負荷軽減



# 農村の地域コミュニティの維持・強化への貢献

## 山間農業地域



### キーワード

とろちろくかんきょうぼぜんかい

あっさぶちよう

## 当路地区環境保全会 (北海道厚沢部町)

農村の地域コミュニティの維持・強化への貢献

- 本地域は、高齢化や後継者不足等による担い手農業者の経営面積増加により、地域資源の保全管理が大きな負担となっていた。
- このため、平成26年度から本交付金に取り組みこととし、29年度からは地域コミュニティの取組を強化するため、清掃活動、植栽活動や鹿子舞保存会との連携による農村文化伝承活動に取組。
- これにより、地域内交流が活発となり世代間交流の増加など、地域コミュニティの維持・強化に繋がっている。

### 【地区概要】※R4年度時点

- ・ 認定農用地面積 136ha (田 136ha)
- ・ 資源量 水路 24km、農道 7km ため池 1ヶ所
- ・ 主な構成員 農業者、老人クラブ、鹿子舞保存会
- ・ 交付金 約 5百万円 (R4)

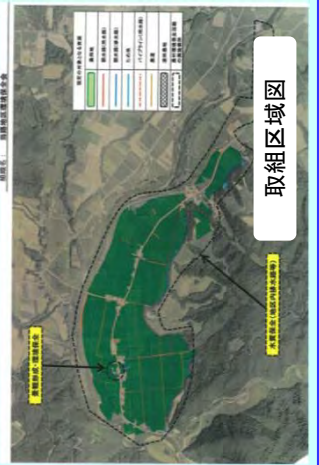
農地維持  
支払

資源向上  
支払  
(共同)

資源向上  
支払  
(長寿命化)

### 活動開始前の状況や課題

- 本地域は、地域住民の減少や高齢化の進行により、担い手農家の経営面積が増加し、農地や施設の管理が手薄となっていた。
- 施設の保全管理や地域の花壇づくりは自費で実施していた。
- 地域コミュニティが希薄となりつつあり、集落機能の低下が懸念されていた。



取組区域図

### 取組内容

- 法面の草刈や外注も活用した農道の砂利敷きなど地域資源の保全管理活動を実施。
- 地域内交流を目的に町内会や老人クラブと連携した清掃活動や植栽活動を実施。
- 鹿子舞保存会と連携し、農村文化伝承活動に取組み、町新年交流会で披露するなど農村コミュニティを強化。



清掃活動



農道の砂利敷き

### 取組の効果

- 施設の補修等が容易に行え、適切な保全管理が可能となった。
- 活動を通じて地域住民が集まる機会が増え町内会や老人クラブなど団体間の交流が活発となった。
- 農村文化伝承活動を通じて、世代間交流が増加することで、過疎化が進行する中でも保存会員数を確保することができた。



伝統芸能の鹿子舞

- 地域住民人口 (H26) (R5) 109人 → 82人 ※25%の減少
- 保存会員数 (H29) (R4) 17人 → 17人 ※増減なし



えんがるちょうかんきょうほぜんこういききょううい  
遠軽町環境保全広域協定

えんがるちょう  
(北海道遠軽町)

- 本町は、遠軽町・生田原町・丸瀬布町・白滝村の3町1村が合併した町であり、平成27年度より全町の農用地を対象に広域協定として開始した。
- 農業用排水路等の農業用施設の老朽化、過疎化・高齢化の進行と経営規模の拡大による地域資源保全のための担い手不足に起因する維持管理負担の増大、さらには、地域コミュニティの低下が懸念されている状況であった。
- 加えて、外来種の増殖と担い手不足による農地や農業用施設の維持管理の低下により、多面的機能の発揮が阻害される恐れがあったため、地域一体となった取組みを目指すことを目標とした。

【地区概要】※R4年度時点

- ・ 認定農用地面積 6,029ha (畑 3,078ha、草 2,951ha)
- ・ 資源量 開水路 74km、農道 135km
- ・ 主な構成員 農業者、非農業者、JA、NPO法人、自治会(行政区)
- ・ 交付金 約 51百万円 (R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

その他

生態系保全・環境保全型農業に関する取組

### 活動開始前の状況や課題

- 外来種の増殖と経営規模の拡大による地域資源保全のための担い手不足による農地や農業用施設の維持管理の低下により、多面的機能の発揮が阻害
- 過疎化等の進行により、地域コミュニティの低下が懸念
- これらのことから、「魅力あるふるさとづくり」として、本来の生態系を守るために外来種の駆除や農地を活用した植栽により、魅力的な農村景観の形成を図ることとした
- また、地域住民との交流や学校教育との連携を図り、活動を通じて地域の魅力を再認識することや、農村コミュニティの活性化を目指す

### 取組内容

- 特定外来種のウチダザリガニ駆除を町民ボランティア団体と連携して年2回実施
  - ・ 町内の子供達と一緒に捕獲活動を行うことで農村コミュニティの活性化に繋がる
  - ・ 捕獲したウチダザリガニは素揚げ等に調理し参加者間で食することによって地域の交流に繋がる



子供たちの捕獲の様子



素揚げ

食事の様子

### 取組の効果

- ウチダザリガニ駆除などを通して、地域住民との交流や学校教育との連携が図られ、農村コミュニティの強化につながった
- 地域内の54haでキカラシなど植栽したことにより、良好な景観を維持し、魅力的な農村の形成を図ることができた



キカラシの植栽



## 構造改革の後押し等地域農業への貢献の推進

### 平地農業地域



ほくりゆうちようかつどうそしき

ほくりゆうちよう

### 北竜町活動組織

(北海道北竜町)

- 本地域は、農家戸数の減少などから施設等の保全管理が困難となっていた。また、景観形成として実施していたひまわりの植栽は、個々に実施し点在していた。
- このため、活動組織による共同活動を実施するとともに、ひまわりの植栽を景観形成活動の一環として共同活動に位置づけ集約化などに取組。
- これにより、保全管理労力の低減に繋がるとともに、景観形成活動は町づくりのシンボルとしてブランド化。農産物の高付加価値化や6次産業化に寄与している。

### 【地区概要】※R4年度時点

- ・ 認定農用地面積 2,788ha  
(田 2,470ha、畑 317ha)
- ・ 資源量 水路 207km、農道 85km
- ・ 主な構成員 農業者、自治会、JA、商工会 など
- ・ 交付金 約 97百万円 (R4)

農地維持  
支払

資源向上  
支払  
(共同)

資源向上  
支払  
(長寿命化)

農産物の後押し等  
地域農業への貢献

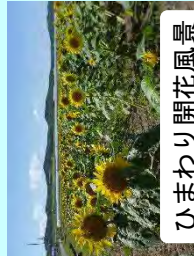
### キーワード

### 活動開始前の状況や課題

- 本地域は、農家戸数の減少により、各農家を実施する施設等の保全管理が困難となっていた。
- 景観形成、町のシンボルとして各農家が農地でひまわりの植栽を開始していたが、植栽範囲が点在しており、集約化が課題となっていた。



播種風景



ひまわり開花風景

### 取組内容

- 施設等の保全管理について、共同活動による管理体制を確立するため、活動組織を設立。
- 「ひまわりの里」を核とした植栽が町全域で推進されていたが、ひまわりの植栽を共同活動に位置づけ、作付け時期等の工夫や植栽活動の集約化を実施。



土砂上げ



農道の砂利補充

### 取組の効果

- 地域の共同活動により、維持管理労力の低減に繋がった。
- ひまわりの植栽は町全域で推進され、植栽活動の集約化等により、単なる観光資源にとどまらず、町づくりのシンボルとしてブランド化
- 観光客の増加や消費者へのPRに寄与し、ひまわりライス等の高付加価値化やひまわり油の販売促進など6次産業化に繋がっている。



刈り取り風景



ひまわり油



## 都道府県独自の取組

### 平地農業地域

しべちやにしちくのうち・みずぼぜんたいい

しべちやちよう

### 標茶西地区農地・水保全隊 (北海道標茶町)

- 本地域は、北海道の東部に位置する大規模酪農地帯にあり、釧路湿原に隣接していることから貴重な野生動植物の生息地として生態系保全が特に重要な地域である。
- このため、施設の適正な保全管理に取り組むとともに、畜産排水が生態系や環境の保全に与える影響に配慮し草地の土砂等が湿原に流出しないよう沈砂池の適切な管理に取り組んでいる。
- これにより、地域に一体感が生まれ、遊休農地の発生を防止するとともに担い手農家への農地集積へつながらり草地の保全が図られている。

### 【地区概要】※R4年度時点

- ・ 認定農用地面積 1,613ha (草地 1,613ha)
- ・ 資源量 水路 13km、農道 20km
- ・ 主な構成員 農業者、非農業者、農業構成員 農業者、非農業者、JA
- ・ 交付金 約 4百万円 (R4)

農地維持  
支払

資源向上  
支払  
(共同)

資源向上  
支払  
(長寿命化)

### キーワード

都道府県独自の取組



### 活動開始前の状況や課題

- 本地域は、日本最大の釧路湿原に隣接し、特別天然記念物であるタンチョウのほか、イトウ、キタサンショウウオなど多くの希少種が生息している。
- このため、草地からの土砂の流出、雑草やゴミの拡散の防止など生態系保全に配慮すべき地域であった。
- また、離農者の増加による担い手農家の不足などから農地や施設の保全管理の粗放化による遊休農地の発生が懸念されていた。

### 取組内容

- 生態系や環境の保全のため農地からの土砂流出を抑制する大規模な沈砂池(7カ所)の土砂上げを定期的を実施。
- 排水路や農道の草刈りや後の適正処理とあわせ、施設周辺のゴミ拾いを行う環境保全の取組を実施。



草刈り

### 取組の効果

- 沈砂池の適正な管理により、畜産排水は環境への負荷を極力低減させて出している。
- 地域の環境保全に取り組む意識が向上し、地域の一体感が生まれ、担い手農家への農地集積が図られている。
- 遊休農地の発生を抑制し、平成20年度以降、遊休農地は発生していない。



土砂上げ

土砂を沈殿させ湿原へつながらる河川に排水して、湿原への土砂流入を抑制している。(土砂上げ後)  
※令和4年度 土砂浚渫量 284立法メートル





# 農振農用地区域外の農地との一体的な取組(水田貯留機能増進)

ぴっぷちよう

ぴっぷちよう

## 比布町広域協定(北海道比布町) [R4年度 4組織広域化]

平地農業地域

- 本地区では、大雨時に農業用排水路や小河川の溢水のおそれがあるなど、洪水対策が地域の大きな課題となっており、田んぼダムによる地域の水田貯留機能を向上させる取組への関心が高まっていた。
- 市街地周辺部では、農振農用地区域内の農用地と区域外の農用地が錯綜しており、これら農用地での一体的な取組により、より効果的な洪水軽減対策が図られると考えていた。
- 活動組織の役員が中心となり、水田貯留機能増進の必要性を地域内の農業者に対して説明し、田んぼダムの取組や広報活動等を通じた防災意識の向上等、防災・減災の取組を開始することとなった。

### 地域の現状

- 本地区は、石狩川、比布川、蘭留川などの流域に囲まれており、平坦な地形であることか、小河川や排水路の溢水など洪水対策が地域の大きな課題となっていた。
- 施設の老朽化に加え、近年の集中豪雨により、排水路の倒壊や法崩れが度々発生していた。



大雨後の農地状況



増水による法崩れ

### 取組内容

- 水田貯留機能増進のため、水位調整施設の整備を実施。
- 大雨が予想される場合、町内防災無線にて田んぼダムを周知し、落口の調整作業を実施している。



落口の調整作業



落口柵、配水管、調整板の整備



畦畔再構築



看板による田んぼダムの取組の啓発・普及



### 【地区概要】※R4年度時点

- ・ 認定農用地面積2,002ha (田2,002ha)
- ・ 資源量 開水路 484km、農道 188km
- ・ 主な構成員 農業者、非農業者、JA、土地改良区、自治会(行区)
- ・ 交付金 約75百万円 (R4)

農地維持 支払

資源向上 支払 (共同)

資源向上 支払 (長寿命化)

地域防災の取組

キーワード

### 取組の効果

- 活動を通じて地域全体で農業用施設を守り、防災・減災に取り組みもと意識が向上した。
- 農振農用地区域外の農地含め地域で一体的に取り組むことにより、市街地周辺の河川・小河川・排水の合流部の水位が低下し、冠水被害が低減した。
- 落口柵・排水管・調整板の更新、畦畔の再構築の実施により、水田貯留機能が向上し、下流域の冠水被害が低減した。(整備面積:548ha 整備箇所:777箇所)



減水効果

多面的機能支払の活動とSDGsの整理表(案)

活動項目	説明（具体的な活動等）	SDGs目標	多面版SDGs15の目標
<b>農地維持</b>			
地域資源の基礎的な保全活動	草刈り、泥上げ等地域資源の適切な保安全管理により、持続可能な農業生産を支える	 2. 飢餓をゼロに	持続可能な農業生産を支える
	草刈り、泥上げ等地域資源の適切な保安全管理により、異常気象時の被害軽減に取り組む	 13. 気候変動に具体的な対策を	気候変動及びその影響を軽減するための対策を実践する
異常気象時の対応	異常気象後の見回り、応急措置を行い、災害に対する強靱性、対応力を強化する	 13. 気候変動に具体的な対策を	気候変動及びその影響を軽減するための対策を実践する
研修	各種研修等に積極的に参加し、国、地方公共団体、関係団体等との連携や技術、情報の共有化を図る	 17. パートナーシップで目標を達成しよう	地域協働の力により目標を達成する
地域資源の適切な保安全管理のための推進活動	構造変化に対応した保安全管理の目標に向けた活動により、持続可能な農業生産を支える	 2. 飢餓をゼロに	持続可能な農業生産を支える
	構造変化に対応した保安全管理の目標（多様な主体・連携型）に向けた活動により、活動組織に参画する主体を増加させる	 16. 平和と公正をすべての人に	多様な主体の参画による地域づくりを促進する
<b>資源向上（共同：施設の軽微な補修）</b>			
機能診断・施設の軽微な補修	機能診断による劣化状況等の早期発見、予防保全活動の実施により、安全で災害に強いインフラを作る	 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	災害に強いインフラづくりとそのための技術の開発に貢献する
	機能診断による劣化状況等の早期発見、予防保全活動の実施により、施設を長く使う（施設の長寿命化を図る）	 12. つくる責任、つかう責任	持続可能な生産・消費を進める
補修技術等に関する研修	補修技術等に関する研修を行い、安全で災害に強いインフラを作る	 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	災害に強いインフラづくりとそのための技術の開発に貢献する
	補修技術等に関する研修を行い、災害に対する強靱性、対応力を強化する	 13. 気候変動に具体的な対策を	気候変動及びその影響を軽減するための対策を実践する
	各種研修等に積極的に参加し、国、地方公共団体、関係団体等との連携や技術、情報の共有化を図る	 17. パートナーシップで目標を達成しよう	地域協働の力により目標を達成する
<b>資源向上（長寿命化）</b>			
補修、更新等	補修、更新等により、安全で災害に強いインフラを作る	 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	災害に強いインフラづくりとそのための技術の開発に貢献する
	補修等により、施設を長く使う（施設の長寿命化を図る）	 12. つくる責任、つかう責任	持続可能な生産・消費を進める
<b>資源向上（共同：農村環境保全活動）</b>			
生態系保全活動	生態系保全活動に取り組み、地域における生物多様性を保全する	 15. 陸の豊かさも守ろう	地域における生物多様性を保全する
	自然を保護する活動を実践する	 11. 住み続けられるまちづくりを	住み続けられる地域をつくる
生態系保全（生物の生息状況の把握）	生物の生息状況の把握により外来種の侵入を防止する	 15. 陸の豊かさも守ろう	地域における生物多様性を保全する
生態系保全（外来種の駆除）	外来種を駆除する取り組みを行う	 15. 陸の豊かさも守ろう	地域における生物多様性を保全する
水質保全活動	水質保全活動、ゴミ等の投棄防止や水の循環利用を増やすなどの取組によって、水質を改善する。	 6. 安全な水とトイレを世界中に	地域における水質を保全する

## 多面的機能支払の活動とSDGsの整理表(案)

活動項目	説明（具体的な活動等）	SDGs目標		多面版SDGs15の目標
	水質保全活動により、ゴミの流出や富栄養化などによる海洋の汚染を防ぐ。		14. 海の豊かさを守ろう	海洋・海洋資源を保全する
水質保全活動（水田からの濁水管理、循環かんがい）	水田からの濁水管理や循環かんがい等により、地域内外の水質を保全し、水資源の持続可能な管理、利用を進める		12. つくる責任、つかう責任	持続可能な生産・消費を進める
景観形成・生活環境保全	施設等の定期的な巡回点検・清掃等によるごみの除去等により水質を保全する		6. 安全な水とトイレを世界中に	地域における水質を保全する
	施設等の定期的な巡回点検・清掃等によるごみの除去等により、ゴミの流出や富栄養化の防止を図る		14. 海の豊かさを守ろう	海洋・海洋資源を保全する
	景観形成活動により、地域住民以外の方が来訪する地域資源を創出する		8. 働きがいも経済成長も	地域における所得向上や雇用の確保を図る
景観形成・生活環境保全（伝統的施設や農法の保全・実施）	伝統的施設や農法の保全・実施により、地域の文化を伝承する		11. 住み続けられるまちづくりを	住み続けられる地域をつくる
農村環境保全活動	様々な取り組みや交流活動により、老若男女、地域内外を問わず、多様な主体の活動の場を創出し、やすらぎや福祉の機会を提供する		3. すべての人に健康と福祉を	やすらぎや福祉の機会を提供する
水田貯留機能増進・地下水かん養	水田の貯留機能向上活動により、災害に対する強靱性、対応力を強化する		13. 気候変動に具体的な対策を	気候変動及びその影響を軽減するための対策を実践する
	水田の地下水かん養機能の発揮や水源かん養林の保全により、水資源の持続可能な管理、利用を進める		12. つくる責任、つかう責任	持続可能な生産・消費を進める
	水源かん養林の保全により、海洋資源を保全する		14. 海の豊かさを守ろう	海洋・海洋資源を保全する
資源循環	農業用水の反復利用により、農業用水を有効に活用する		12. つくる責任、つかう責任	持続可能な生産・消費を進める
	有機性物質の堆肥化により、資源循環を無駄なく使い、農業を持続可能なものとする		9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	災害に強いインフラづくりとそのための技術の開発に貢献する
	有機性物質の堆肥化、間伐材等を利用した防護柵等の適正管理により、資源循環の取り組みを進める		12. つくる責任、つかう責任	持続可能な生産・消費を進める
	小水力発電施設の適正管理により、持続可能なエネルギーの利用を推進する		7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに	持続可能なエネルギーの利用を推進する
農村環境保全活動	農村環境保全活動の実践活動や広報活動、啓発活動、地域住民等との交流活動により、持続可能な地域づくりへの理解を深める		4. 質の高い教育をみんなに	地域内外の人に質の高い教育、生涯学習の機会を提供する
啓発・普及活動（広報活動）	広報活動により、多様な主体の参画を促進する		11. 住み続けられるまちづくりを	住み続けられる地域をつくる
啓発・普及活動（交流活動）	地域住民等との交流活動により、活動への関心を高める		11. 住み続けられるまちづくりを	住み続けられる地域をつくる
啓発・普及活動（広報活動・交流活動）	広報活動・交流活動により、地域住民以外や企業、大学等、都市と農村の連携を促進する		11. 住み続けられるまちづくりを	住み続けられる地域をつくる
啓発・普及活動（学校教育等との連携）	学校教育との連携等により、地域の農業や環境保全、持続可能な地域を作るための教育の場を創出する		4. 質の高い教育をみんなに	地域内外の人に質の高い教育、生涯学習の機会を提供する
啓発・普及活動	広報活動、啓発活動、地域住民等との交流活動により、自然と調和したライフスタイルの啓発・普及に取り組む		12. つくる責任、つかう責任	持続可能な生産・消費を進める

## 多面的機能支払の活動とSDGsの整理表(案)

活動項目	説明（具体的な活動等）	SDGs目標		多面版SDGs15の目標
啓発・普及活動 （地域内の規制等の取り決め）	規制（ルール、約束事等）を取り決めて、自然と調和したライフスタイルの啓発・普及に取り組む		12. つくる責任、つかう責任	持続可能な生産・消費を進める
啓発・普及活動 （上下流等の交流活動）	水田を利用した水田貯留機能増進、地下水かん養を推進するために上下流等の中で連携を図り、災害に対する強靱性、対応力を強化する		13. 気候変動に具体的な対策を	気候変動及びその影響を軽減するための対策を実践する
	水田を利用した水田貯留機能増進、地下水かん養を推進するために上下流等の中で連携を図り、都市と農村の連携を図る		11. 住み続けられるまちづくりを	住み続けられる地域をつくる
啓発・普及活動 （行政機関等との連携）	農村環境保全活動の啓発・普及のために行政機関等への情報提供や情報共有等による連携を図る		17. パートナリシップで目標を達成しよう	地域協働の力により目標を達成する
<b>多面的機能の増進を図る活動</b>				
遊休農地の有効活用	地域内外からの営農者の確保や地域住民等の活動により、遊休農地を有効活用する		2. 飢餓をゼロに	持続可能な農業生産を支える
	農業体験や景観形成等の場の提供等により都市農村交流の場を創出したり、特産物の生産や生産物の6次産業化へ発展させたりする		8. 働きがいも経済成長も	地域における所得向上や雇用の確保を図る
鳥獣被害防止対策及び環境改善活動の強化	鳥獣被害防止対策及び環境改善活動の強化により、農地利用や地域環境の改善のための活動により持続可能な農業生産を支える		2. 飢餓をゼロに	持続可能な農業生産を支える
地域住民による直営施工	直営施工による施設の補修や環境保全施設の設置、そのための技術取得等により、安全で災害等に強いインフラを作る		9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	災害に強いインフラづくりとそのための技術の開発に貢献する
	直営施工による施設の補修やそのための技術取得等により、災害に対する強靱性、対応力を強化する		13. 気候変動に具体的な対策を	気候変動及びその影響を軽減するための対策を実践する
防災・減災力の強化	水田やため池の雨水貯留機能の活用や危険ため池の管理体制の整備、災害時における応急体制の整備等、地域が一体となった防災・減災力の強化のための活動により、災害に対する強靱性、対応力を強化する		13. 気候変動に具体的な対策を	気候変動及びその影響を軽減するための対策を実践する
やすらぎ・福祉及び教育機能の活用	医療・福祉施設等との連携等により、地域資源の有するやすらぎや福祉の機会を提供する		3. すべての人に健康と福祉を	やすらぎや福祉の機会を提供する
	医療・福祉施設等との連携等により、地域資源の有するやすらぎや教育の場としての機能を活用し、多くの人が参画した地域づくりを進める		11. 住み続けられるまちづくりを	住み続けられる地域をつくる
	医療・福祉施設等との連携等により、地域資源の有するやすらぎや教育の場としての機能を活用し、誰でも参加できるしくみをつくる		16. 平和と公正をすべての人に	多様な主体の参画による地域づくりを促進する
農村文化の伝承を通じた農村コミュニティの強化	伝統的な農業技術、農業に由来する行事の継承等、農村文化を伝承する。		11. 住み続けられるまちづくりを	住み続けられる地域をつくる
	伝統的な農業技術、農業に由来する行事の継承等により、地域の文化の振興や6次産業化、持続的な観光を促進する		8. 働きがいも経済成長も	地域における所得向上や雇用の確保を図る
広報活動・農的関係人口の拡大	広報活動により、多様な主体の参画を促進する		11. 住み続けられるまちづくりを	住み続けられる地域をつくる
	広報活動により、地域住民以外や企業、大学等、都市と農村の連携を促進する		11. 住み続けられるまちづくりを	住み続けられる地域をつくる

## 多面的機能支払の活動とSDGsの整理表(案)

活動項目	説明（具体的な活動等）	SDGs目標	多面版SDGs15の目標
<b>全般</b>			
計画策定（多様な主体による活動）	農業者以外の団体など、多様な主体が活躍する場を創出する	 11. 住み続けられるまちづくりを	住み続けられる地域をつくる
組織構成（役員、構成員の多様化）	活動組織に参画する（役員や構成員となる）主体を増やす（減少させない）	 16. 平和と公正をすべての人に	多様な主体の参画による地域づくりを促進する
女性の参画	活動組織の役員や活動に参加する女性の割合を増加させる	 5. ジェンダー平等を実現しよう	女性の参画により地域や活動組織の取り組みの可能性を広げる
	女性が中心となって企画する活動を作る	 5. ジェンダー平等を実現しよう	女性の参画により地域や活動組織の取り組みの可能性を広げる
	活動内容や時間帯等、女性が参加しやすい工夫をして、女性の参画、参加を促す	 5. ジェンダー平等を実現しよう	女性の参画により地域や活動組織の取り組みの可能性を広げる
持続可能な地域づくりに向けた人材育成	持続可能な地域づくりに向け、組織運営や事務を担う人材の育成を行う	 12. つくる責任、つかう責任	持続可能な生産・消費を進める
持続可能な地域づくりに向けた組織体制の検討	持続可能な地域づくりに向け、組織体制（役員構成、女性や非農家等の参画、世代交代、広域化、事務委託等）を行う	 12. つくる責任、つかう責任	持続可能な生産・消費を進める
NPO法人化等組織の体制強化	NPO法人化や広域組織化等により、組織の連携体制強化を図る	 17. パートナリーシップで目標を達成しよう	地域協働の力により目標を達成する
自己評価、SDGsアイデアシート等を活用した持続可能な地域づくりの点検	これまでの活動や組織運営を定期的に振り返り、持続可能な地域づくりについて点検して、その結果を共有する	 12. つくる責任、つかう責任	持続可能な生産・消費を進める
環境保全型農業直接支払交付金等への取り組み	認定農用地の区域内で環境保全型農業直接支払交付金や有機農業等に取り組む農業者を支援し、持続可能な食料生産を支える	 2. 飢餓をゼロに	持続可能な農業生産を支える
	認定農用地の区域内で環境保全型農業直接支払交付金や有機農業等に取り組む農業者を支援し、水質を保全する	 6. 安全な水とトイレを世界中に	地域における水質を保全する
地産地消、6次産業化等	地産地消や地域の農産物や地域資源を活用した新事業（6次産業化等）を支援している。	 8. 働きがいも経済成長も	地域における所得向上や雇用の確保を図る
地産地消	地産地消を推進する	 12. つくる責任、つかう責任	持続可能な生産・消費を進める
都市農村交流	地域住民以外や企業、大学等と連携した活動を行う	 11. 住み続けられるまちづくりを	住み続けられる地域をつくる
都道府県、市町村、推進組織等との連携	都道府県、市町村、推進組織等との連携を積極的に行う	 17. パートナリーシップで目標を達成しよう	地域協働の力により目標を達成する
土地改良区との連携	土地改良区が構成員として参加する等、土地改良区との連携を図る	 17. パートナリーシップで目標を達成しよう	地域協働の力により目標を達成する
他の活動組織や団体との連携	他の活動組織や団体と連携して活動を行う	 17. パートナリーシップで目標を達成しよう	地域協働の力により目標を達成する
大学や企業等との連携	大学や企業等との連携により、研究開発の促進や技術の向上に貢献する	 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	災害に強いインフラづくりとそのための技術の開発に貢献する